令和３年度第１回博物館協議会　議事要録

日　時　　令和３年８月５日（木）　10:00～11:30
場　所　　プラザおおるり　第一会議室
出席者　　【委　員】青木委員、小長谷委員、小林委員、法月委員、平野委員、松村委員、太田委員
　　【事務局】博物館　又平館長、絹村課長補佐、朝比奈主任学芸員、望月主査、曳地学芸員
　　※傍聴者なし

１　開会（10:00）

２　委嘱状の交付

３　又平館長挨拶

４　議事
委員長に小長谷氏、副委員長に前原氏が推薦され、承認された。

(1) 報告事項
①令和２年度事業報告について
ア. 入館者及び観覧料収入
イ. 講座・体験学習等の開催状況
ウ. 企画展及び収蔵品展の状況

◆質疑

【委　員】　令和３年度の開館日数は何日か。また、１日あたりの入館者人数は、前年度に引き続き、落ち続けているのか。

【事務局】　令和３年度の開館日数については、手元に資料が無い。１日当たりの入館者数は引き続き落ちている。その理由としては、ツアー客や学校など、団体客の減少が挙げられると考えられる。

【委　員】　しまだきものさんぽのイベントニュースを見た。イベントと関わることによって、どのような手ごたえがあるのか。

【事務局】　７月24日のしまだきものさんぽとのコラボレーションイベントでは、割

引で39名の入館、全体で106名の入館者があった。

【委　員】　一日平均の入館者数というのは、今までの表には掲載されていただろうか。今までの資料には無かったように感じるが、数字が比較しやすくとても良いと思う。南アルプス展は非常に楽しい企画で、一日平均入館者数が64.9人と多いのも納得できる。永井秀樹展の講座も満員で、パソコンを使った実演は、興味関心が高い企画であったのであろう。このような面白い企画を続けてほしい。

【委　員】　昨今、修学旅行などで静岡空港を使ったり、近場を回るマイクロツーリズムが注目されている。博物館では、どのような広報をしているのか。

【事務局】　学校向けに、コロナ禍におけるパッケージ案を紹介している。例えば川越街道や諏訪原城など、コースと所要時間を紹介しており、それを見て昨年度は、県内の高校などが来館してくれたのではないかと推測される。

【委　員】　県立熱海高校は、どのような目的や人数で来館したのか教えてほしい。

【事務局】　修学旅行として、30人弱の少人数での、自由見学であった。学年全体での行動ではなく、見学場所を分散して感染症対策をしているようだ。また、大井川鐵道のSLに乗車する前に、博物館に寄るコースもあるという。

【委　員】　大井川鉄道に乗る前に大井川等の歴史について勉強するのはいいことだ。このような見学コースを多くの人に知ってもらうのもいいかもしれない。

【事務局】　学校でも、県をまたぐ旅行の企画が難しくなっている。今は良くても、旅行の時に緊急事態宣言などが出てしまうと県外に出ることが出来なくなるため、県内で計画を立てざるを得ない事情がある。そのような事情から、川越遺跡や牧之原開拓等と併せて、パッケージにしやすいのかもしれない。

【委　員】　コロナ禍の厳しい条件の中で、博物館を選んでいただけるのはありがたい。

【委　員】　大井川鉄道や蓬莱橋は、どのように小中高校に営業をしているのか聞いて、協力し合って横のつながりでPRするのがいいのではないか。最近の学校の活動は、学年100名以上で動くのではなく、クラス単位で課題を見つけ、見学をしている。大井川鐵道や蓬莱橋と併せて、博物館も提案できたらいいのではないか。

【事務局】　５～６月にかけて蓬莱橋でビラ配りをした。その結果を分析する限り、概ね２割程度の方に博物館に足を運んでいただいた。観光気運が回復すれば、大井川鐵道に関しては、午後の列車に乗るために、午前中の内に島田に入る方が多いようなので、その隙間の時間の来館を促せるようにしたいと考えている。また、南アルプス展や永井秀樹展を鑑みるに、コンテンツが良いと来館者も伸びるので、今後も良い企画を立案し続けたい。本館から分館への促しについては、川越街道を活用していきたいと考えている。

【委　員】　分館への道は好きだが、本館で立ちっぱなしで見学したあと、さらに分館に移動してまた見なければならないのは、つらく感じる。そのため、分館で休める・癒される・お茶が飲めるようにして、活用していくのがいいのではないか。今のままだと、道のりが長く感じ入る。

【委　員】　本日初めて分館に行ったが、分館までの道が長くて驚いた。道の景観が美しいので、活かしきれないのは勿体ないと感じた。

【委　員】　静岡市にある地球環境史ミュージアムのサインは、年表になっている。見た人が能動的に歴史を学べる、動きながら楽しめる、歩きながら楽しめる動的サインであり、参考になるかもしれない。

②令和３年度展示及び事業計画について
ア. 博物館本館・分館展示
イ. 講座・体験学習等

◆質疑
【委　員】　初めて銅版画の博物館講座に参加し、とても楽しかった。講師の先生もとてもユニークで魅力があり、このまま講座が終わってしまい、共に銅版画を学んだ受講生たちと別れてしまうのが惜しいぐらいであった。博物館のプレス機は、今後貸し出しの機会はあるのか。また、昔のくらしの体験は、どのようなことをしているのか。

【事務局】　昔の暮らしの体験は、例えば蚊帳に入ったり、雨戸とガラス戸を閉めたりする体験などを行った。シンプルな体験でも、子どもたちや若い世代には印象深い経験となるようである。また、工作室のプレス機は、個人的な貸し出しを行う予定が無い。参加者よりご意見をいただければ、次年度以降に再度銅版画講座を開催することが可能となると思う。

（２）協議事項

①令和４年度本館・分館展示計画について

【委　員】　現在朝日新聞のシリーズで「学芸員の逸品」を紹介しているものがある。来年度本館の「博物館お宝展」では、作品と共に、仕事をしている学芸員の顔や人柄が見えるようなものがあるといいのではないか。作品を展示するだけではなく、本人によるギャラリートークをして、作品に対する熱量を来館者に伝えてほしい。また、来年度分館の展示タイトルのうち、「期待を彫る」の期待とは何か教えてほしい。

【事務局】　「期待を彫る」というタイトルはまだ仮案である。海野光弘は30代で没しているが、その晩年にどのような想いをもって作品を作っていたのか、海野光弘が見つめた未来を、展示で紹介したいという思いで、展示タイトル案を出した。

【事務局】　令和３年・４年の企画をみて、博物館による、子どもから大人までたくさんの人に興味を持ってもらうためのアプローチを強く感じることが出来た。先日、土器などの埋蔵文化財を実際に小学校６年生の児童に見せ、触らせる機会があったが、本物を見た瞬間に子供たちの目の色が変わり、関心が高まったのが印象的であった。現在島田市内の小学校では、島田や自分の地域に愛着を持ってもらうために、授業で地元を紹介するパンフレットを作ることがある。その中で、博物館に力を借りることにより、できることが広がる可能性を感じた。

②刀剣の寄託について

【事務局】　寄託の申し出があった。大変貴重な名刀であることは承知しているが、所有者変更等の必要手続きが滞っており、銃刀法17条に抵触する恐れがある。そのため、今の状況では寄託を受けられない、というのが博物館の考えである。

【委　員】　この寄託品は、コレクションポリシーに即しているのか。

【事務局】　寄贈については基準があるが、寄託については基準が無かった。現在の状況では寄託を受けるのが困難であるため、断りをいれる方向で進めてよろしいか。→了承を得た。

５　その他

・常設展示室のリニューアルに伴う基本計画について（プロポーザル延期）

・次回開催日について
→令和３年11月ごろを予定。
主な議題はリニューアルの内容になるため、その進捗状況により協議会開催の目途がつき次第、各委員に連絡をする。

6　閉会（11：40）